

個の成長を促す教育的支援の在り方2

－ 活動意欲の高まり －

佐賀県立金立養護学校 教諭 中本 典子 佐賀県立大和養護学校 教諭 片渕 香織

1 グループ研究の趣旨

文部科学省の「特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議」が平成15年3月にとりまとめた「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」において、障害の種類や程度に応じた特別の指導を行う「特殊教育」から、障害のある児童生徒に対してその一人一人の教育的ニーズを把握し適切な教育的支援を行う「特別支援教育」への転換を図るとともに、その推進体制を整備することが提言され、これを受けて特別支援教育への取組は積極的に推進され、着実に広がってきている。

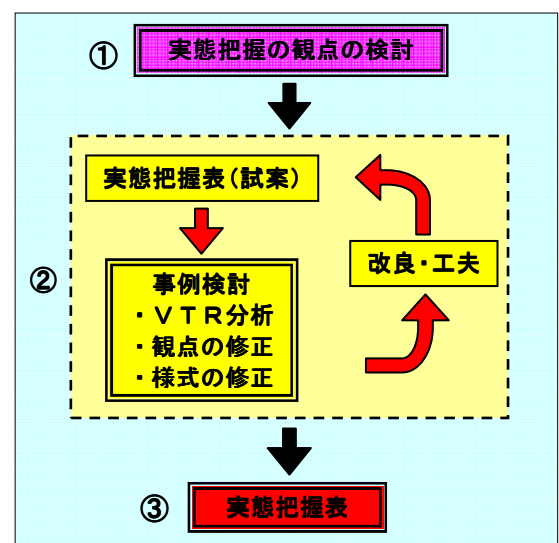
盲・聾・養護学校においては、児童生徒の教育的ニーズの把握のための実態把握に基づき個別の指導計画が作成され、各領域・教科の実践が行われている。個別の指導計画における実態把握は、児童生徒の全体的な実態をとらえるものである。それを各領域・教科の指導に生かしながら、各領域・教科ごとの観点で、よりきめ細かな見取りを行うことになる。しかし、障害の程度の重い児童生徒や幾つかの障害を併せ持つ児童生徒の指導においては、題材の選択・手立て・かかわり方などが不十分な場合、児童生徒が授業の中で心理的に不安定になって活動に取り組めないことがあったり、教師が児童生徒からの意思表示を見落とししたりすることがある。このような状況では、児童生徒は、学習、その他の活動に意欲的に取り組むことは困難である。このことは、具体的な指導計画作成上の大きな課題であると考えられる。したがって、場面を絞ったより具体的な実態把握の在り方を充実させることが大変重要である。このことにより、児童生徒一人一人に合った適切な手立てや場の設定をすることができ、そのことが授業の質を高め、ひいては児童生徒の活動意欲を高めることにつながることを考える。

そこで、本グループでは、個の成長を促す日々の教育実践を行うために「活動意欲の高まり」をテーマに、実態把握の在り方について研究を進めることとした。

2 研究の内容と方法

以下に示すような流れで、研究を進めた（右図参照）。

- ① 文献や先行研究を基に、児童生徒の「活動意欲の高まり」を見取るための実態把握の観点を検討した。
- ② 実態把握表（試案）を作成し、「遊びの指導」「自立活動（コミュニケーション）」において、それぞれ実践し、VTR分析を通して、観点や様式の修正を行った。
- ③ ②の過程を繰り返し行い、授業に生きる実態把握表を作成した。



研究の全体構想